

地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 (第 25 期・第 1 回)

議事要旨

日 時 : 2020 年 12 月 28 日(月) 10:00~11:45

会 場 : 遠隔会議 (主催会場 : 東京大学) (Zoom online 会議室)

出席者 : 田近 英一、中村 卓司、西 弘嗣、春山 成子、堀 利栄、
大路 樹生、大谷 栄治、沖野 郷子、小口 高、掛川 武、
川口 慎介、川幡 穂高、木村 学、久家 慶子、小嶋 智、佐々木 晶、
佐藤 薫、関 華奈子、寶 馨、張 勁、佃 榮吉、中村 尚、中村 正人、
西山 忠男、氷見山幸夫、平田 直、藤井 良一、山形 俊男、
オブザーバー参加 : 阿部 なつえ

配布資料 :

資料 1-1 地球惑星科学委員会人材育成分科会分科会の設置議案書

資料 1-2 地球惑星科学人材育成分科会委員名簿および追加に関して

資料 2 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

資料 3 メール審議の実施について

議題等 :

- (1) 第 25 期役員の決定について
- (2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- (3) 分科会委員間のメールアドレス共有について
- (4) JpGU2021 ユニオンセッションおよび教育委員会のセッションに関して
- (5) 第 24 期における活動のまとめ
- (6) 第 25 期における活動方針
- (7) その他

議事 :

西 弘嗣世話人より、資料 1・2 に基づき、分科会の設置提案書が紹介され、現在人材育成分科会に登録されている名簿に沿って 28 名全員の出席とオブザーバー参加 1 名の追加委員の説明が行われ、合計 29 名の出席が確認された。その後、議事次第に沿って議事進行が行われた。

- (1) 第 25 期役員の決定について

第 25 期の人材育成分科会の委員長を互選により西 弘嗣氏とし、副委員長(大路)及び幹事(堀、掛川)については委員長指名で決定することが承認された。

(2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

議事要旨の速やかな公開のため、委員による確認の後、承認については議長に一任する旨、了承された。

(3) 分科会委員間のメールアドレス共有について

メール審議の必要が生じた際に、委員同士でのやり取りが可能なように委員間のメールアドレスを共有したい旨説明があり、承認された。

(4) 第 24 期における活動のまとめについて

第 24 期人材育成分科会委員長の木村学委員よりスライドを元に前期の活動についての説明があった。

提言「初等中等教育および生涯教育における地球教育の重要性：変動する地球に生きるための素養として」作成した。

大学教育、体制の現状についてのアンケートを JpGU で実施し分析を行っているとの報告があった。その後、大学の現状、就職の状況など、現在の問題に関して議論した。その結果、以下の(1)から(5)の結論を得たが、5つ目の学科長・専攻長会議での検討については、コロナ禍による5月の JpGU 会議の中止により実施されていないとの説明があった。

1) この分野の専門職員は 1800 人程度なのに対し、この分野で博士を取得する人は毎年 110 人程度となっている。時限でなく、若手を対象とした正規職員のポジションの増加が必要である。

2) 正規職員の研究者の待遇も、海外のレベルに近づける努力が必要である。実際、海外の優秀な研究者の日本での勤務に支障が出ている。

3) これは、国際性の促進といった課題とリンクしており、人口減少の日本社会において、海外とのリンケージの促進をすべきである。

4) 最終的に Funding Agency として、日本学術振興会の方にも具体的なお願いするための議論・行動を起こすことを、具体的に検討することになった。

5) 大学・大学院の高等教育、早期キャリアを通じての人材育成に関して、2020 年 5 月実施の学科長専攻長会議等を通じて検討することになった。

JpGU で実施されたアンケート調査結果の公開についての質問に、結果全般の公開については検討中との回答が、現 JpGU 会長田近氏からあった。

(5) 第 25 期における活動方針について、世話人から以下の 3 点が示された。

1) 今期も 2 つの WG グループをつくるかどうか。

1 つ目は、高等教育 WG 高大接続、大学・大学院教育、早期キャリア教育、大学教育に関する提言を主眼としたもの、

2つ目は、初等・中等教育 WG、全国実態調査の実施、高校地学教育改善施策の提案を主眼としたもの

2) 初等中等教育提言のフォローアップ

3) 新しい提言をどうするか（コロナ下における人材教育や、質保証における提言の改訂など）

それ対し、物理系などが実施しているキャリアパスに関わる詳細なアンケート調査参考にして定量的なデータを人材育成分科会でも検討してどうかとの意見があった。一部公開されている JpGU が行った PhD 対象のキャリアパスアンケートでは、博士取得者の 50%が研究職についている結果が出ているが、他 50%の調査がされていないなど問題点が示され、今期では、他分野の先行調査を参考に、大規模アンケートをとる方針が決定され詳細は委員会ないで検討する事になった。

（メモ：若手アカデミーより、政府等外部評価からは研究業界以外の職についた博士人材の定量評価が要求されている事をコメントされた。）

また、初等中等教育提言のフォローアップも念頭に入れて、2つの WG もしくは小委員会をつくる事が決定された。

高等教育の WG では、大規模アンケート実施やこれまでの学科長・専攻長会議アンケート結果等の検討を行う事、初等中等教育 WG（小委員会）では、地理教育分野における先行事例を参考に、提言フォローアップとして 10 年後の学習指導要領改訂へコミットすることを目指してその方法等も含めて検討・活動することとなった。

各委員の WG（もしくは小委員会）所属については、委員長からのメールに希望を返答する形で決定する事となった（希望があれば両方の WG（小委員会）に所属も可）。

（メモ：地球惑星科学分野全般の研究力低下についての検討についても意見が出されたが、本分野だけでなく学術会議全体での議論である。また、理科教育人材育成の問題についての懸念も示されたが、それらは、また組織された WG で検討される事になった。）

提言については、各 WG から必要に応じて改めて人材育成委員会に提案する事になった。また、コロナ下だけでなくコロナ後の新しい人材育成ビジョンなども提言にまとめていく事となった。

WG（小委員会）には、高等学校や関係省庁など現場の学部委員も交えて議論することが重要であり、ぜひそのように開催されるべきとの意見が出された。

(6) JpGU2021 ユニオンセッションおよび教育委員会のセッションに関して

阿部なつ江氏（JpGU 教育検討委員会委員長）より、来年度 JpGU 人材育成に関わるユニオン・パブリック・アウトリーチセッションの紹介があった。第 24 期に引き続き、JpGU 教育検討委員会との連携を図り、WG メンバーに高等学校等現場教員に入って貰うよう意見があった。

（7）その他

- jPGU との連携が重要であるため、jpGU 教育員会委員長の阿部なつ江氏に特任連携会員として参画してもらうように幹事会に推薦することになった
- 委員長より、人材育成分科会については、年 6 回ペースでの開催を念頭に次回の開催については、メールで通知
- また、資料未達の方については、連絡受け次第送付する旨の説明があった。